

2016年12月

第27回(2016年度)タカシマヤ文化基金受賞決定

10月27日(木)に行われました公益信託タカシマヤ文化基金運営委員会において、第27回タカシマヤ美術賞受賞者及び助成団体が決定いたしました。本年度の美術賞受賞者は現代美術の大巻伸嗣(オオマキシンジ)さん、金工の留守玲(ルスキ)さん、陶芸の和田的(ワダアキラ)さんの3名。受賞団体は、岐阜県美術館、兵庫県立美術館、横浜トリエンナーレ組織委員会の3団体です。なお贈呈式は、平成29年1月23日(月)午後6時より、日本工業倶楽部3階大ホールにて開催いたします。

タカシマヤ文化基金について

弊社はこれまで、豊かな生活文化の創造に貢献するため、「生活に美を、潤いを」を標榜、明治42年に美術部を創設し、和・洋問わず芸術作品を世に紹介して参りました。

近年国際化や情報化の進展に伴う社会環境の変化により、精神的・文化的な豊かさがより求められるようになる中、弊社は有能な作家の発掘支援と豊かな芸術文化の創造をめざし、平成2年に「公益信託タカシマヤ文化基金」を設立し、新鋭作家個人への助成、および美術文化の発展に寄与した団体への助成を行っております。毎年「タカシマヤ美術賞」として作家個人には200万円、そして団体に対しましては総額200万円を上限とした支援を行っております。

I 『タカシマヤ美術賞(助成金 各200万円)』

●^{オオマキ}大巻^{シンジ}伸嗣 <現代美術>



大巻伸嗣さん



Echoes Infinity -Moment and Eternity-

2016年撮影:Ito Tetsuo

2016 Aichi Triennale Organizing Committee

1971年岐阜県生まれ。1997年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。「トーキョーワンダーウォール2000」に『Opened Eyes Closed Eyes』で入選以来、『Echoes』シリーズ(資生堂ギャラリー、水戸芸術館、熊本現代美術館、東京都現代美術館等)、『Liminal Air』(東京ワンダーサイト、ギャラリーA4、金沢21世紀美術館、アジアパシフィック・トリエンナーレ2009、箱根彫刻の森美術館等)、『Memorial



Rebirth』(横浜トリエンナーレ 2008) など、展示空間を非日常的な世界に生まれ変わらせ、鑑賞者の身体的な感覚を呼び覚ますダイナミックなインスタレーション作品やパブリックアート を発表。1997 年キリンコンテンポラリー・アワード奨励賞、2003 年第 6 回 岡本太郎記念現代芸術大賞特別賞、 2015 年第 8 回円空大賞円空賞等。現・東京藝術大学美術学部教授。

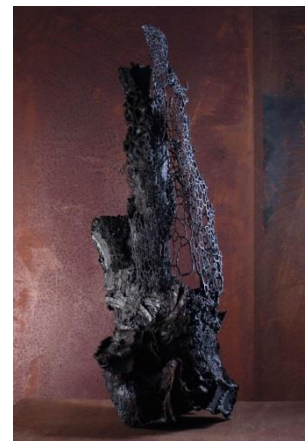
重力と恩寵/Gravity and Grace

2016 年撮影:Ito Tetsuo

2016 Aichi Triennale

Organizing Committee

ル ス アキ
●留守 玲 <金工>



留守 玲さん

「蟻や花か」2016 年

「蒼のあいづち」2016 年

1976 年宮城県生まれ。2002 年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻クラフトデザイン修了後、一貫して金属を素材とした造形に取り組む。2001 年熊日総合美術展 21 世紀アート大賞 2001 熊本放送賞、2003 年財団法人日本文化芸術財団第 11 回日本文化芸術奨励賞、2008 年第 44 回神奈川県美術展工芸部門特選受賞等。パブリックコレクションは山口県立萩美術館・浦上記念館。留守氏の作品は、金工の三大技法の一つである「鍛金」に加え、「溶断」「溶接」という金工においてはどちらかといえば付随的な技法を中心に用いた独自のものである。この技法の上に留守氏は金属(鉄)ならではの「錆びる」という特徴も取り込み、「サビ(寂)」の美意識にも独自のアプローチを試みている。

現・多摩美術大学工芸学科非常勤講師。

● ^{ワダ}^{アキラ} 和田 的 <陶芸>



和田 的さん



白器「表裏」2016年



白器「とり」2016年

1978年千葉県生まれ。2001年文化学院芸術専門学校陶芸科卒後、上瀧勝治氏に師事。2005年窯を持ち独立、2007年文化庁新進芸術家海外研修員として渡仏。現在日本工芸会正会員、千葉県美術会理事、千葉県陶業会会員、茨城県陶芸大学校県外講師。受賞歴は、2007年日本工芸会賞、2009年第3回菊池ビエンナーレ奨励賞、第20回日本陶芸展特別賞、2011年第6回パラミタ陶芸大賞等。天草磁土を轆轤で厚く引き、特注カンナで全体を掘り出すという独自の手法を用いている。削りの工程を制作の中心に置くというアイデアは、従来の陶芸には見られないものである。和田氏は轆轤で途中まで成形した後、あるいはブロックの状態から器形や表面を削り出すことでシャープな稜線や造形を生み出す。最後は釉薬をかけずに焼成し完成させることで、しっとりとした肌触りの作品に仕上がっている。

II 『団体への助成(助成金 3団体で200万円)』

●岐阜県美術館

来年開催が予定されている企画展「ディアスポラ・ナウ～故郷を失った者たちのビデオ・アート（仮）」とシンポジウムに対し助成を行う。岐阜は第2次大戦中リトアニア領事館赴任の際にナチス迫害から逃れた難民にビザを発給し6千を越える命を救った「杉原千畝」の出身地。紛争や災害から住む場所を追われる人が後を絶たないという現代の世界情勢のもと、岐阜でこのような展覧会を行うことの意義を考え開催を決定。

●兵庫県立美術館：

2015年に個人コレクターにより寄贈された秀作「今井俊満《ヴェネチアに捧ぐ》」の修復に対し助成を行う。本来木枠に張り壁に掛けて展示される大型で迫りに満ちた作品であるが、長年巻物として保管されていたため支持体（布）に巻きぐせと変形があり形状が損なわれていた。今後は外部専門家の協力を得て木枠の作成と張り込みを行い、展示可能な状態の復元を目指す。

●横浜トリエンナーレ組織委員会

3年に1度横浜市で開かれる現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ 2017」と並行し、連続トーク「ヨコハマラウンド」が開催される。その一環として「アジアの国際展－『グローバルゼーション』の終焉から『接続性』の時代へ－」というテーマのシンポジウムを開催し、アジアにおける国際展を現在の政治経済状況に照らして検証する。この一連の企画に対し助成を行う。

以 上